

No. 1252

幸運呼ぶ春の祭り

I. 縁起だるま

次々とだるまが集められてくる。人々の商売繁盛、家内安全を祈る縁起だるま。だるまの効き目は一年できれる。任を終えただるまを供養するどんどん焼き。燃え尽きようとするだるまに人々は深い感謝を捧げる。1月9日、群馬県・前橋市では本町通りに福だるま市が立ち、町の両側がだるまで埋まった。だるまが転んでも起きるのを祈って縁起とするもので、開運のまもりとして、昔から関東地方を中心に伝わる。露店いっばいに積みあげられただるまの数は15万個、安く値切るのが縁起がいいというので、売り手と買い手のかけひきが続く。普通は前年のより大きいのと買いかえていくのだそうだが、今年ばかりはそうもいかない様子。2—3千円の安いものが一番出たとか。長い不況と物価高の中で人々は手も足も出ないだるまに夢を託す。

II. 勝部の火祭り

静かなたたずまいを見せる琵琶湖。湖の南側に接する滋賀県守山市、勝部町の町かどには、年があけるとすぐに、ナタネガラで作った大きなたいまつが横たわる。8日、日が沈むと共ににはじまった「勝部の火祭り」。直径1.5メートル、長さ4メートル、重さ400キロの大たいまつ20基が裸の若者たちによって勝部神社と住吉神社にかつぎ込まれる。この火祭りは760年前、土御門天皇が病気の時、全快を願った地元民が満願の日に現われた大蛇を焼きこころしたところ、天皇の病気もたちどころに回復したという故事にちなんだもの。県の無形文化財に指定され、県下最大の新年伝統行事として大勢の見物客を集めている。たいまつで大蛇の型を作り、午後9時の鐘を合図に一斉に点火。火柱が冬空20メートルの高さに達し祭りは最高潮。裸の若者たちが、ゴーヨ、ヒョーヨと呼びながら乱舞する様は、まさにそうかん。こうして人々は、今年一年の無病息災を祈った。